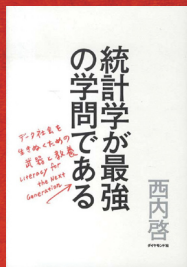




『統計学が最強の学問である』

西内啓 ダイアモンド社



「経験と勘だけの不毛な議論」でものごとを決めることが、いかに大きな犠牲を人々に強いっているかを具体的に力説して、私たちの働き方にきわめて大きな示唆を与え、統計学入門を越えた読者の広がりを獲得した、パワーと情熱にあふれた本。

(唐沢暁久 / 講談社 ※一部抜粋)



『経営戦略全史』

三谷宏治 ディスカヴァー・トゥエンティワン



400ページを超えるボリュームにもかかわらず一気に読ませる。いままで個々でバラバラに見ていた戦略論が、わかりやすい文章でつながっていく楽しみを感じさせてくれた、すごい本でした。

(藤井荘平 / 文苑堂書店商品部 ※一部抜粋)



『ゼロ』

堀江貴文 ダイアモンド社



起業から10年で一気に時代の寵児になった「天国」と、実刑判決を受け耐え難い孤独を経験した「地獄」を味わった著者だからこそ、読者に伝えられる「ゼロ」からのスタートに説得力と力強さを感じ、胸を打たれた。十代の若い方々はもちろん、著者よりも上の世代の方々にも読んでみていただきたい一冊。(斎藤広臣 / オリオン書房所沢店 ※一部抜粋)



『嫌われる勇氣』

岸見一郎 / 古賀史健 ダイアモンド社



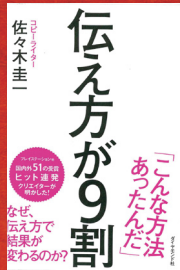
「勇氣の心理学」と言われる「アドラーの心理学」を、哲人と青年との会話を通じて分かりやすく紹介している。読めば読むほど、「世界的名著の源流、ここにあり!」と感じる本である。

(小笠原真奈武 / ブログ「ビジネス書のエッセンス」管理人 ※一部抜粋)



『伝え方が9割』

佐々木圭一 ダイアモンド社



私たちの日常は、コミュニケーションの連続であり、考えや思いを言葉にして伝える力はとても重要だ。正しく伝えることができないなら、良いアイデアを持っていても宝の持ち腐れとなる。**伝える力こそが、私たちの人生を決定づけているのだ。**

(嶋田有孝 / 日経サービス ※一部抜粋)



『不格好経営』

南場智子 日本経済新聞出版社



起業の魅力と困難さが凝縮されている。**この本を読んで起業を決意した人なら、必ず成功するんじゃないだろうか。**そのくらいの起業の困難さが描かれているが、その経験の素晴らしさには嫉妬を覚えた。失敗事例が多く開示されている点において、経営学のケースとしても魅力的。

(岩佐文夫 / ハーバード・ビジネス・レビュー編集長)



『覚悟の磨き方』

池田貴将 サンクチュアリ出版



ちょうど、「どう生きるべきか」と迷っていた時に読んだ事もあって、とても感銘を受けた作品。気高く、崇高で、熱い志が現代語で伝わってくる本書は、人生とは何か、生きる意味とは何かを教えてください。**人生に迷った時に読み返したい一冊です。**

(讀屋一龍 / ブログ「一流への道～立志篇～」管理人 ※一部抜粋)



『世界のエリートはなぜ、この基本を大事にするのか?』

戸塚隆将 朝日新聞出版



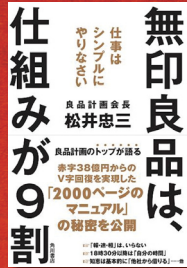
やや高度ながら、当たり前の仕事術が**具体的かつロジカル**にあげられていて、入社3年目ぐらいからのスタッフの**教科書**としたい1冊。

(干場弓子 / ディスカヴァー・トゥエンティワン取締役社長)



『無印良品は、 仕組みが9割』

松井忠三 角川書店



良くないイメージがついて回る「マニュアル」ですが、正しいマニュアルとは強力な武器であることを示しています。自分の仕事に正しいマニュアルはあるか、問い直すきっかけになります。

(水上紗央里 / 紀伊國屋書店和書販売促進部)



『俺のイタリアン 俺のフレンチ』

坂本孝 商業界



坂本社長の戦力思考が非常によくわかる本。新規事業を行う人や独立を考えている方にはとても参考になると思います。長年の経験に裏打ちされたビジネス思考は非常に面白く、また、坂本社長を支える人々の巻き込まれ方も面白い。

(篠田晃典 / 丸善日本橋店店長)



『まんがでわかる 7つの習慣』

フランクリン・コヴィー・ジャパン(監修) 宝島社



世界的ベストセラーのエッセンスをギュッとまとめている非常にコスパの高い1冊。特にすばらしいのはまんがのストーリー性です。このまんががあるだけで誰でも「7つの習慣」を理解することができます。

(三塚まどか / ジュンク堂書店仙台北店 ※一部抜粋)